

★ 水稻のいもち病（穂いもち）に注意！！ ★

- ・ 7月中旬に行った巡回調査の結果、葉いもちの発生は平年比やや多い（山城：平年比やや多い、南丹：平年比多い、中丹：平年並、丹後：平年比やや多い）発生でした（表）。
- ・ 7月22日発表の近畿地方1カ月予報では、向こう1か月の気温は平年比高く、降水量は平年並、日照時間は日本海側で平年並または多く、太平洋側で平年並と予想されています。
- ・ 今後、移植時の箱施用薬剤の効果が低下する時期になることから、気象条件によって（気温の低下を伴う降雨→強い夕立、台風接近 等）は、いもち病（穂いもち）の発生が拡大することが予想されますので、伝染源となるいもち病（葉いもち）の発生が目立つ場合は、治療効果がある薬剤などで防除を徹底しましょう。

表1 葉いもち巡回調査結果（7月第3～4半旬）

項目		本年	平年値
山城	発生ほ場率(%)	33.3	16.7
	発病株率(%)	2.7	3.5
	発病度	0.7	1.4
南丹	発生ほ場率(%)	55.6	18.9
	発病株率(%)	24.9	10.7
	発病度	6.2	3.5
中丹	発生ほ場率(%)	16.7	18.3
	発病株率(%)	7.3	4.9
	発病度	1.8	1.3
丹後	発生ほ場率(%)	11.1	6.7
	発病株率(%)	3.6	1.1
	発病度	0.9	0.3
京都府	発生ほ場率(%)	30.0	14.3
	発病株率(%)	10.5	5.2
	発病度	2.6	1.7

☆ 防除上の留意事項 ☆

- (1) 上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもちの重要な伝染源となる。
- (2) コシヒカリ、ヒノヒカリ、祝など発病しやすい品種や、すでに葉いもちが多発している水田や山間部の水田では特に注意し、防除適期に薬剤防除を実施する。
- (3) 出穂後、曇雨天が続く場合には、傾穂期前後にも防除を行う。特に、枝梗は遅くまで菌の侵入を受けるので、枝梗いもちの発生に注意する。
- (4) 葉いもちの発生が多い場合は、治療効果がある薬剤（カスガマイシン剤：商品名カスミン剤等、フェリムゾン・フサライド剤：商品名 ブラシン剤等）で防除する。
- (5) 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- (6) 農薬の選択に当たっては普及センター、農協等と相談し、使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を参照のこと。

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>

- (7) 平成25年度に中丹地域の一部で、ストロビルリン系薬剤（QoI 剤）耐性菌が発生した。耐性菌の発生地域では、いもち病に対する QoI 剤の使用を行わず、他系統の薬剤（抵抗性誘導剤、MBI-R 剤等）を使用すること。

QoI 剤を使用したほ場で、防除効果の低下が疑われる場合は、速やかに病害虫防除所または、関係機関に連絡する。

詳細は京都府病害虫防除所ホームページ（<http://www.pref.kyoto.jp/byogai/>）

QR コード：

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



「病害虫発生予報コーナー」>「平成25年に発表した予察情報等」
>「防除所ニュース第6号：QoI 剤耐性イネいもち病菌の発生について（平成25年11月13日）」
を参照のこと。